



## 景況DI値は後退傾向に転換。しかし、コロナ感染者減少による景気回復に期待もあり

### 概況(全体)

10月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが5.0%(前回調査8.6%)、「悪化」が51.7%(同48.3%)で、業界全体のDI値は-46.7となり、前月調査と比較し7.0ポイント後退した。

全国及び東北・北海道ブロックは、ワクチン接種進展により感染者数が減少しているものの、多くの事業者が今後の景況感に慎重な見方を示している。

また、原油価格の急激な上昇や第六波の懸念等、先行きを不安視する声も多いが、今後の国の経済対策や人流の回復の本格化に期待を寄せる声も寄せられている。

### 業界別の状況

製造業は、業況が「好転」したと回答する数が減少し、「悪化」したと回答する数が増加した。

また、非製造業においても同様に、「好転」したと回答する数が減少し、「悪化」したと回答する数が増加した結果となった。

業界全体のDI値は後退傾向に推移している。燃料等原材料の高騰が継続していることや、比較対象となる前年同月はGotoキャンペーンなどの施策が実施されていたことで比較値が高かったことが原因と考えられる。

全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-46.7	-27.9	-31.6
製造業	-41.7	-22.6	-22.3
非製造業	-50.0	-32.0	-36.6

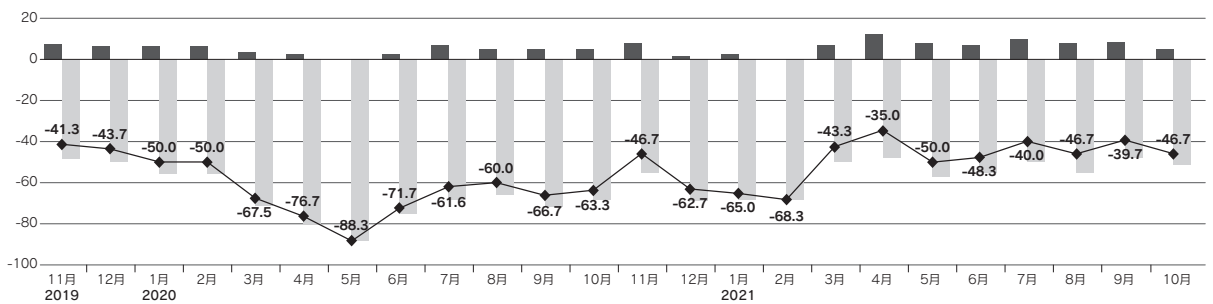
景況天気図

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	⚡⚡⚡	☂	☂	☁	☂	⚡⚡⚡	⚡⚡⚡
非製造業	⚡⚡⚡	⚡⚡⚡	⚡⚡⚡	☁	☂	⚡⚡⚡	⚡⚡⚡

**[凡例]** ⚡⚡⚡ 雷雨 -30以下  
☂ 雨 -30超 -10未満  
☁ 曇り -10以上 10未満  
☀ 晴れ 10以上 30未満  
☀ 快晴 30以上  
**[天気図の見方]** 前年同月のDI値をもとに作成しています。

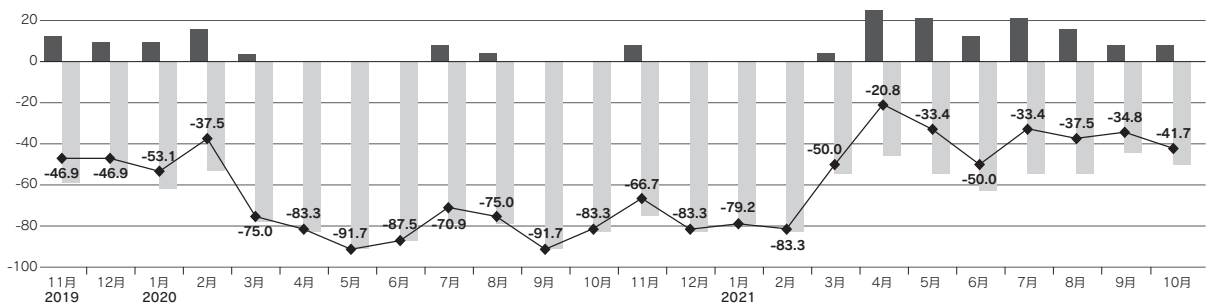
【景況DI値の推移[前年同月比]】

業界全体



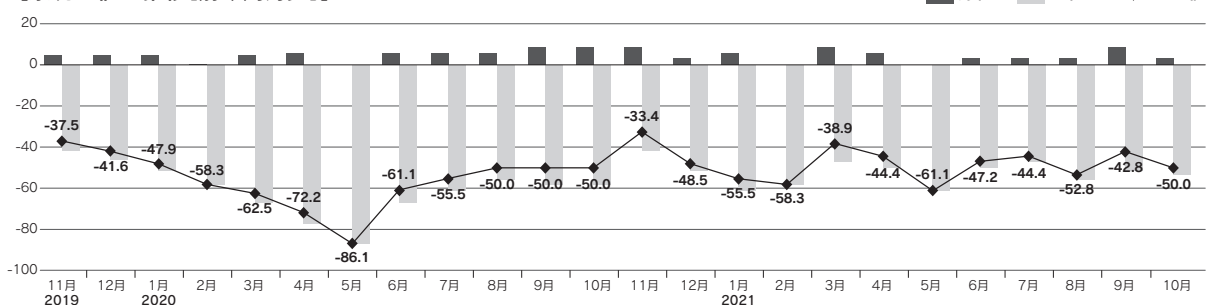
【景況DI値の推移[前年同月比]】

製造業



【景況DI値の推移[前年同月比]】

非製造業



●製造業

(回答数:24名 回答率:100%)

【食料品(精穀・製粉)】

10月後半に入り、全国的に新型コロナウイルス感染者の減少に伴い、売上も回復傾向となったが、コロナ以前までの回復には至っていない。そのような中での原油価格上昇による燃料費の高騰は、収益状況の悪化に繋がっており、経営の厳しさが増している。

【食料品(パン)】

売上は少しずつ回復しており、前年並みに戻ってきている。しかし、原材料や光熱費の値上がりが続く、収益が急激に落ち込んでいる。11月1日には業界最大手の山崎製パンがパン240種類の値上げを発表した。

【繊維工業(繊維)】

衣服の消費の落ち込みが止まらず、縫製業の経営状況が悪化している。10月の最低賃金の値上げが契機となり、廃業や倒産をする工場が増えることが懸念される。また、アパレルメーカーも販売不振のため工賃が厳しく設定されており、できるだけ工場の生産性でカバーしたいが、生産ラインの見直しや縫製技術の向上等、現状でできる生産力向上も限界であり苦しい状況である。

【木材・木製品(一般製材)】

製品の受注量は落ち着いてきているが、年内(10月~12月)は現状で推移の見込み。上半期(4月~9月)の売上高は前年比164%増加となった。一方で、原木の入荷量が減少しており、年末までの原木不足が深刻な状況となっている。

【木材・木製品(素材生産)】

ウッドショック及び新型コロナウイルス感染症が落ち着きつつあることから、原木の荷動き及び売上等も落ち着いてきている。一部の国産材製材工場の需要が停滞してきている報告もあるが、年内は大きく取引等が落ち込むことはないと思われる。

【鉄鋼・金属(鉄鋼)】

鉄骨材料の価格上昇が続いているものの、原材料価格の上昇分を製品価格に転嫁出来ていない会社が出始めている。また、材料の需要増加のため供給が間に合っていないほか、ボルト類、板材等についても発注から納入まで時間がかかっており製品の納期に影響が出ている。

【一般機器(金属加工)】

規模が比較的大きい事業者は受注も堅調に推移している。しかし、下請けの中でも孫請け中心の小規模事業者においては受注面が厳しく借入金が増加傾向にある。

【その他の製造業(漆器)】

新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、行楽シーズンは少しずつ来客数も増加してきた。冬の到来前に少しでも売上に繋がってほしい。

●非製造業

(回答数:36名 回答率:100%)

【卸売業(商業卸)】

新型コロナウイルス感染者の減少で経済環境は少しずつ回復の光が見えてきたものの、観光や飲食関連業種は依然として厳しい状況に変わりない。一方、建築資材関連卸業は資材の入荷遅れが顕著で対応に苦慮している。

【小売業(みやげ品)】

昨年10月期はGotoトラベル支援施策もあり、2019年比較で92%まで回復したが、今年の10月は同年比較で38%であった。緊急事態宣言が解除され、感染者数も減っていることから、今後は回復していくことに期待したい。

【小売業(花卉)】

コロナ禍が長引いていることで、花卉生産を中止したり、廃業する生産者もでてきており入荷が少なくなっている。そのため仕入れ単価の上昇が続いて、販売価格にも影響している。

【商店街】

秋の商戦が盛んな季節を迎えていたが、9月以降も客足は戻らず売上は前年同月に届かない商況になった。店頭の定番在庫もメーカーに在庫が無く売り逃し(機会損失)となっている。

【サービス業(旅館)】

修学旅行の秋への振替分が来訪しており人数ベースでは回復しつつあるものの、一般客が低調なため売上ベースで伸び悩んでいる。

【サービス業(旅行)】

10月の売上の前年同月比は103.0%であるが、前々年同月比では38%である。新型コロナウイルスの感染者も減少しているほか、緊急事態宣言も解除となったことから、今後の回復を期待したい。

【建設業(一般建設)】

木材や鉄材などの価格が高騰している。今後は円安・原油高等によりコスト転嫁が各種資材にも波及し、更なる原価上昇となる可能性が高い。

【運輸業(トラック)】

燃料価格が7年ぶりの高値で下がる見込みがない。運賃の値上げが実現できないと企業経営は非常に危険な状況となる。

\*DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。